

## ◆第2四半期決算説明会要旨◆

### ●2020年3月期第2四半期連結業績

売上高は前年同期比 63 億 23 百万円減、5.1%ダウンの 1,187 億 65 百万円、営業利益は同 28 億 77 百万円減、29.3%ダウンの 69 億 48 百万円、経常利益は同 36 億 16 百万円減、35.8%ダウンの 64 億 90 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同 26 億 26 百万円減、36.6%ダウンの 45 億 42 百万円となった。

リンテック単体と連結子会社の業績については、売上高は単体が前年同期比 74 億 39 百万円減、8.7%ダウンの 781 億 97 百万円、連結子会社が同 29 億 15 百万円減、4.7%ダウンの 595 億 5 百万円となった。営業利益は単体が前年同期比 13 億 96 百万円減、26.8%ダウンの 38 億 7 百万円、連結子会社が同 13 億 40 百万円減、30.3%ダウンの 30 億 77 百万円となった。

売上高は、単体では印刷・情報材事業部門、洋紙事業部門が僅かに前年同期を上回ったものの、その他の事業部門は低調に推移した。連結子会社では、マディコ社、リンテック・ 코리아社が好調だったものの、アドバンストマテリアルズ事業部門の販売子会社を中心に総じて低調に推移した。

営業利益は、単体では主な増益要因としては、石化原材料や燃料価格は上昇したものの、パルプ価格が下落したことにより、原燃料価格で約 2 億円のプラス効果があった。一方、主な減益要因としては、販売数量の減少などにより約 19 億円のマイナス影響があった。連結子会社では、マディコ社、リンテック・ 코리아社は増収効果により増益となったが、その他の連結子会社は販売数量の減少などにより総じて減益となった。

セグメント別では、印刷材・産業工材関連の売上高は、印刷・情報材事業部門が前年同期比 11 億 66 百万円増、2.7%アップの 439 億 9 百万円、産業工材事業部門が前年同期並みの 173 億 83 百万円となり、セグメント全体の売上高は前年同期比 11 億 67 百万円増、1.9%アップの 612 億 92 百万円、営業利益は同 13 億 37 百万円減、63.4%ダウンの 7 億 70 百万円となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、印刷・情報材事業部門のシール・ラベル用粘着製品は国内で宅配・通販関連が堅調だったものの、食品関連や飲料用キャンペーンラベル、化粧品などのアイキャッチラベルが低調に推移した。海外では中国で米中貿易摩擦の影響を受けたが、アセアン地域において堅調に推移した。産業工材事業部門はウインドーフイルムが国内外ともに堅調に推移したが、二輪を含む自動車用粘着製品はインド市場低迷の影響を受けて低調に推移した。

電子・光学関連の売上高は、アドバンストマテリアルズ事業部門が前年同期比 46 億 78 百万円減、18.2%ダウンの 210 億 7 百万円、オプティカル材事業部門が同 21 億 20 百万円減、10.6%ダウンの 178 億 88 百万円となり、セグメント全体の売上高は前年同期比 67 億 99 百万円減、14.9%ダウンの 388 億 96 百万円、営業利益は同 14 億 92 百万円減、24.8%ダウンの 45 億 34 百万円となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、アドバンストマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープが市場低迷の影響を受けて減少となり、半導体関連装置は設備投資抑制の影響を受けて大幅な減少となった。また、積層セラミックコンデンサ関連テープについても、自動車用、スマートフォン用共に市場の生産調整の影響を受けて大幅な減少となった。オプティカル材事業部門は光学ディスプレイ関連粘着製品が大型テレビ用で堅調だったものの、スマートフォン用などの中小型向けが需要低迷の影響を受けて低調に推移した。

洋紙・加工材関連の売上高は、洋紙事業部門が前年同期比 3 億 35 百万円増、4.1%アップの 85 億 6 百

万円、加工材事業部門が同 10 億 27 百万円減、9.3%ダウンの 100 億 70 百万円となり、セグメント全体の売上高は前年同期比 6 億 91 百万円減、3.6%ダウンの 185 億 76 百万円、営業利益は同 39 百万円減、2.4%ダウンの 15 億 88 百万円となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、洋紙事業部門は隠蔽性を付与した封筒用紙が堅調に推移したほか、建材用紙やファストフード向けの耐油耐水紙などが順調に推移した。加工材事業部門は電子材料用剥離紙が堅調だったものの、一般粘着製品用剥離紙や光学関連製品用剥離フィルムは低調に推移した。

## ●2020 年 3 月期通期連結業績予想

当第 2 四半期連結累計期間の業績は、米中貿易摩擦の長期化などによる世界経済減速の影響を大きく受けて低調に推移し、当第 3 四半期以降も引き続き厳しい経営環境が継続するものと予想される。このような状況下、通期の連結業績については、電子・光学関連製品がメーカーの生産調整や設備投資抑制などにより低調に推移する見込みであることなどから、2019 年 5 月 9 日に公表した 2020 年 3 月期の通期連結業績予想を修正した。

売上高は当初予想の 2,600 億円から 230 億円減額の 2,370 億円、営業利益は 190 億円から 55 億円減額の 135 億円、経常利益は 185 億円から 60 億円減額の 125 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 135 億円から 45 億円減額の 90 億円とした。

事業部門別売上高の見通しについては、印刷・情報材事業部門は、単体において食品関連や飲料用キャンペーンラベルなどが低調であることに加え、中国では米中貿易摩擦の影響を受けるなど引き続き厳しい事業環境が続くと見ており、当初予想の 919 億円から 40 億円減額の 879 億円とした。産業工材事業部門は、マディコ社が堅調に推移すると見込んでいるものの、インド市場を中心に二輪を含む自動車用粘着製品が当初予想を下回ると見ており、369 億円から 16 億円減額の 353 億円とした。アドバンストマテリアルズ事業部門は、半導体関連粘着テープが回復基調にあるものの、半導体関連装置はメーカーの設備投資抑制などの影響を大きく受けることが見込まれ、また積層セラミックコンデンサ関連テープについてもメーカーの生産調整の影響を受けて当初予想を下回ると見ており、528 億円から 85 億円減額の 443 億円とした。オプティカル材事業部門は、上期に堅調だった大型テレビ用が下期に入って需要低迷の影響を受けると見ており、392 億円から 62 億円減額の 330 億円とした。洋紙事業部門は、耐油耐水紙が堅調に推移すると見込んでいるが、封筒用紙の販売数量は当初予想を下回ると見ており、175 億円から 5 億円減額の 170 億円とした。加工材事業部門は、一般粘着製品用剥離紙や光学関連製品用剥離フィルムが需要低迷の影響を受けて当初予想を下回ると見ており、217 億円から 22 億円減額の 195 億円とした。

セグメント別の営業利益の見通しについては、印刷材・産業工材関連は、マディコ社が堅調に推移しているものの、国内外において販売数量の減少などの影響を受けると見ており、当初予想の 46 億円から 30 億円減額の 16 億円とした。電子・光学関連は、半導体関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープ、光学ディスプレイ関連粘着製品の販売数量の減少により、100 億円から 10 億円減額の 90 億円とした。洋紙・加工材関連は、パルプ価格の下落を見込んでいるものの、販売数量の減少をカバーするまでには至らないと見ており、44 億円から 15 億円減額の 29 億円とした。

配当については、中間配当金は当初予想どおり 1 株当たり 39 円を実施することとした。期末配当金は当初予想の 1 株当たり 39 円を変更していない。

なお、現中期経営計画「LIP-2019」は今期が最終年度であることから、本来であれば来年 4 月から新

たな3か年の中期経営計画をスタートさせる予定だった。しかし、中計2年目に当たる2021年4月から収益認識に関する会計基準が強制適用となり、売上高や利益率への大きな影響があると想定されることなどから、来期は単年度計画とし、次期中期経営計画は2021年4月からスタートすることとした。また、当社グループが持続的成長を遂げていくために、10年先を見据えた長期ビジョンを掲げ、中期経営計画はそれを実現するための3年ごとのマイルストーンと位置付けたいと考えている。

### ◆質疑応答◆

**印刷材・産業工材関連の通期の営業利益予想が46億円から16億円に減少した理由は。**

印刷・情報材事業部門の減額ウエイトが大きい。国内においては天候不順などの影響で食品関連や飲料用キャンペーンラベルなどが低調に推移しており、売上構成の悪化なども見られることから、今後も厳しい状況が続くと見ている。また、マックタック・アメリカ社の収益改善の遅れも要因として挙げられる。

**マックタック・アメリカ社の通期予想において、当初予想よりも赤字幅が拡大したのはなぜか。**

原材料価格が高止まりしている状況の中で、市場における価格競争の激化の影響を受けている。早期改善に向けて、設備の稼働率や歩留まりの向上、また原材料の代替品の模索など、コストダウン活動を徹底していきたいと考えている。

**アドバンストマテリアルズ事業部門の半導体関連製品と積層セラミックコンデンサ関連テープの通期の見通しは。**

半導体関連テープについては市況が上向きになりつつあり、通期ではほぼ前期並みまで回復すると見込んでいる。また半導体関連装置は、第4四半期から回復すると見ているものの、まだまだ不透明な部分も多く、今期は対前年比で3割程度の減少を予想している。積層セラミックコンデンサ関連テープについても、今期は約3割の減少になると見ている。

**積層セラミックコンデンサ関連テープの足元の状況が好調なセラコンメーカーの動向とギャップがあるように感じるが。**

メーカーの在庫が積み上がっていた影響もあり、当社の回復は実需よりも多少遅れると認識している。下期に入って回復の動きは出てきているものの、今後については少し保守的に予測している。

**パルプ価格の上期実績と下期の前提価格を教えてください。**

上期の実績は80.22円/kgで、前年の上期に比べて7円ほど下がった。下期については76円/kgを想定している。

以上